

めあて

文章を正しく読み取ろう

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

未来(みく)と咲(さき)は小学校の頃から、同じマーチングクラブでトランペットを吹いていた。中学校でも吹奏楽部に入り、二人そろってトランペットを任せられた。いきなりのレギュラーに未来と咲は手を取り合っていて喜んだが、未来はミスを重ね、先輩にしかられてしまう。

演奏曲は難しい。上手な先輩たちの中で、気後れもしている。けれど、出だしが遅れるなんて、小学生時代にさえなかったことだ。気にすればするほど、タイムイングがつかめなくなってくる。

未来はトランペットをア握った。

「今日はこれで終わりにしよう。」

先輩が指揮台を降りると、みんなは無言で楽器を片付け始めた。重たい空気がたちこめる。鳴ってもいない重低音が、どこかで響いているようだった。

となりでは、咲がトランペットの手入れを始めていた。クロスで拭かれた金色がまぶしい。光が、そこから放たれているのではないかと思うほど強く輝いている。

「咲ちゃんは、すごいね。」

「イ言った言葉が、自分の耳にうらみがましく返ってきた。」

「全然すくえないよ。いつもと同じだよ。」

咲の返事には、なんの他意も混じっていないのに、胸に黒いインクが一滴落ちて広がった。①未来はいたたまれずに席を立った。楽器を棚にしまい、荷物を持って音楽室を出る。

「ふてくされんなよ。」

背中越しの声に振り向くと、指揮者の先輩が立っていた。

「それより、もっと自信をもてよ。」

励ますような声が続いた。

自信? 未来は目を丸め、首をかき上げた。

未来の部屋の机には、写真立てが置いてある。入っているのは、小学校のマーチングクラブでの写真だ。高らかにトランペットをかまえた、赤い衣装の未来と咲。背中合わせにポーズをとって、胸を張って笑っている。誇らしそうな笑い声が聞こえてくるかわりに、先輩の声が思い出された。

「もっと自信もてよ。」

それは、ずっと耳をはなれない言葉だった。先輩から言われた時、未来はちぐはぐな気持ちになった。意味はよくわかるのに、まるで実感を伴わなかったからだ。

教科

国語

名前

進路・夢の実現に向けて、この1問をクリアしよう!

一 文章中の「ア」、「イ」に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の1から4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 .. ア ふわっと イ すらりと
- 2 .. ア ぎゅっと イ ぼつんと
- 3 .. ア ふわっと イ ぱしっと
- 4 .. ア ぎゅっと イ ひらりと

二 文章中に「①未来はいたたまれずに席を立った」とあるが「未来」がいたたまれなくなった理由として最も適当なものを次の1から4の中から一つ選び、その番号を書け。

- 1 .. 咲の的確な助言を迷惑に感じたから
- 2 .. 早く帰宅して練習をしたかったから
- 3 .. 小学生の頃の演奏を思い出したから
- 4 .. 咲への自分の気持ちに嫌だったから

三 文章中の波線部「首をかき上げた」とあるが、このとき「未来」が感じた気持ちとほぼ同じ意味で用いられている語として最も適当なものを次の1から4の中から一つ選び、その番号を書け。

- 1 .. 罪悪感
- 2 .. 緊張感
- 3 .. 違和感
- 4 .. 不安感

振り返り	一
	二
	三